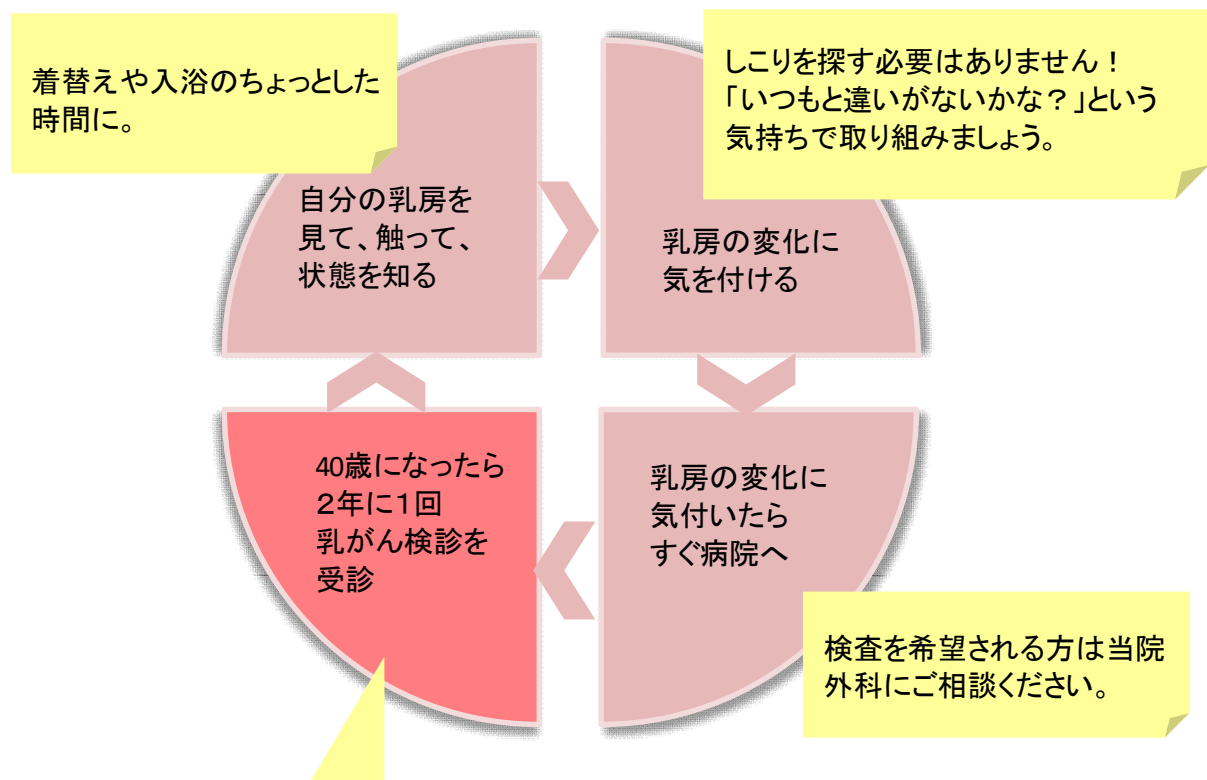


ブレスト・アウェアネス Breast Awareness のすすめ

2000年に24人に1人がかかると言われていた乳がんは、現在では11人に1人とされるまでに年々増加しています。乳がんは女性のかかるがんの第1位であり、かかる年齢層の多くがつつい自分の事を後回しにしてしまいがちで多忙な40歳～60歳代です。しかし、近年では70歳代や80歳代の女性にも増え、20歳代、30歳代の若い世代にまで広がっていますので、どの年齢層の方でもご自身の乳房に関心を持つことが大切です。

乳がんは、がんの中では比較的進行が遅く、お薬もよく効くものが多いので、「早めに見つけて」「早めに治療」すれば、ほぼ治るがんです。

この「早めに見つけて」を行うために、“ブレスト・アウェアネス”が重要となってきます。この聞きなれない言葉の“ブレスト・アウェアネス”とは、「乳房を意識する生活習慣」のことで、女性が自分の乳房の状態に日頃から関心を持つことにより、乳房の変化を感じたら速やかに医師に相談するという正しい受診行動を身につけるための意識付けです。



乳がん検診を受診するときは、マンモグラフィを撮影する診療放射線技師、読影する医師、基準を満たしたマンモグラフィ装置の3つがそろった施設を選ぶことが大切です。

当院では、この3つの全てに日本乳がん検診精度管理中央機構の定める「**検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師**」・「**検診マンモグラフィ読影認定医師**」・「**マンモグラフィ検診画像認定施設**」の認定を取得しています。受診者の皆さまに、安心して質の高い乳がん検診を受けていただくことが可能です。

乳がん検診により、「異常あり」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしましょう。